

2020年度秋季研修会「講演会」実施報告

福島県社会科教育研究会 研究推進委員

1 日 時 令和2年11月21日(土)

2 会 場 飯坂学習センター

3 参加者 会員、一般参加者 22名

4 講演

(1) 講師 和洋女子大学教職教育支援センター相談員(元全日本社会科教育研究会会長)

赤坂 寅夫 先生

(2) 演題 「単元を貫く問いのあり方と学習評価」

(3) 内容

赤坂先生からは主に4つの点についてお話がありました。

○「次期学習指導要領(平成29年版)」について

「資質・能力の3つの柱」や「主体的・対話的で深い学び」「学びの地図」などがキーワードとしてあげられる。改訂の基本的な考え方として「一体改革」と「一貫改革」がある。「学びの地図」としての枠組みづくりについては、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を確認する。観点別評価も学力の3要素に沿って3観点となった。

○「単元を貫く問い」について

総則の指導内容や学習評価にも示されているように、単元や題材など内容やまとまりを見通した指導計画が必要である。問いの意義は問題発見・追究・解決するために生徒の思考を促すことにある。「単元を貫く問い」をどこで設定するか、「単元を貫く問い」に迫るための学習活動をどのように展開するかを考えることが重要である。

○「新たな学習評価の在り方」について

「知識及び技能」の評価は技能を単にテクニックとして捉えるのではなく、理解でき、納得でき、さらに説明できる状況になることを求めている。「主体的に学習に取り組む態度」の評価には自らの理解の状況を振り返ることができる発問を工夫したり、自らの考えを相対化する場面を設けたりすることが重要である。

○「ワークシートの活用と評価」について

ワークシートには種類とレベルがある。A:略地図などの単純な作業をするもの。B:資料の読み取りを行い、気づいたこと・わかったことを記入するもの。C:資料の読み取りを基に見方・考え方を引き出すもの。D:自分の考えをグループや学級全体での討論を基に深める・再構築するもの。(AからDは組み合わせてもよい)

資料の読み取りから見方・考え方を引き出すには、一つの資料をじっくり読み取らせ、その背景・要因を考えさせる活動や複数の資料を比較・関連させて読み取り、背景・要因を考えさせる活動がある。



[篠田会長あいさつ]



[赤坂先生の講演]

5 理事会 研修・意見交換会

(1) 栃木県中教研社会科部会との懇談会報告 【常任理事 渡辺康弘より】

2023年（令和4年度）に全国大会が開催される栃木県の社会科部会と情報交換を行った。栃木県は毎年開催される関東ブロック中学校社会科教育研究会を定期的に受け入れており、大会を運営する実績やノウハウをもっている。福島県の課題が明らかになった。

(2) 福島県中教研社会科部会研究主題を振り返って【研究部長 大木 修より】

全国大会（福島大会）に向けて、研究の目的、研究推進のスタンス、研究推進の見通しと方法、研究組織について提案・確認した。

(3) 全中社研福島大会ロードマップの再確認【事務局長 大橋誠寿より】

今後の全中社、東北社研の開催地をあらためて確認した。

○全中社 2021年〔東京〕、2022年〔名古屋〕、2023年〔栃木〕、2024年〔北海道〕
2025年〔大阪〕、2026年〔福島〕

○東北社研 2021年〔秋田〕、2023年〔岩手〕、2025年〔青森〕

6 秋季研修会に参加して

今回の講演は、「中学校社会科のしおり」で「地理学習トラの巻」を執筆されていた赤坂寅夫先生にご講演いただいた。令和3年度から実施となる学習指導要領についてあらためてポイントを確認するとともに、生徒が学ぶということ、そのために教師は何をしなければいけないかということを考える機会となった。

研修・意見交換会では、若い先生方から、「研修の機会が増えるとよい」「ネットワークがほしい」という積極的な意見が出された。



〔大木研究部長より講師紹介〕



〔講演会〕



〔研修・意見交換会〕



〔研修・意見交換会〕